

ASJ アクシデントレポート vol.2018-3

～事故予防編～

一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN (ASJ) では、今年1月下旬から、報道の中から、スポーツ中の事故予防に役立つ取り組みを見つけ、ASJ アクシデントケースに集約してきました。

ASJ が見つけた報道がすべてというわけではありませんが、2018年に行われた事故予防のための取り組みを紹介します。

1. スポーツ事故予防の理念・ガイドライン

- 公益財団法人日本ユニセフ協会、[子どもの権利とスポーツの原則](#)
- 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構、[スポーツ事故の予防と競技団体のコンプライアンス](#)
- スポーツ庁、[大学部活動における安全の確保等について](#)
- [関東学生アメリカンフットボール共同宣言 2018](#)
- カナダスポーツ仲裁機構 (SDRCC)、[スポーツにおけるハラスメントフリーの環境に向けて](#) (Toward an Abuse-Free Environment in Sport)
- 栃木県高体連、事故防止マニュアルの配布 (下野新聞、[栃木県高体連、完成マニュアルを配布 35 専門部、事故防止を徹底へ](#))

2. 事故事例の調査

- 独立行政法人日本スポーツ振興センター、[熱中症事故の調査](#)
- 田中有、[子どもの事故をどう防ぐ——「死亡事例のデータ化」実現に向けて](#)

3. 個別の事故の防止の例

(1) 飛込事故の防止

- 東京都教育委員会、飛び込みの禁止（内田良、[高校の水泳事業 飛び込みスタート禁止に](#)）

(2) 水泳事故

- スポーツ庁、[水泳等の事故防止について](#)

(3) 陸上女子選手に対する鉄剤注射の禁止

- 日本陸上競技連盟（読売新聞、[使用が後絶ため鉄剤注射、「治療名目」も禁止へ](#)）

(4) 脳震とう予防

- 公益財団法人日本サッカー協会、[サッカーにおける脳振盪に対する指針](#)
- DONNA SPENCER、[National concussion guidelines largely adopted by Canadian sports](#)（参考訳：「カナダのスポーツ大部分の団体が、国が定めた脳震とうガイドラインを採用している」）

(5) 心臓突然死の防止

- 自転車競技の心臓検査の実施

4. シンポジウム・講習会

- 日本スポーツ法支援・研究センターなど、シンポジウム「これで防げる野球練習中の事故」（朝日新聞、[野球練習中の事故で裁判「外出もつらかった」 大越監督](#)）
- 日本スポーツ法支援・研究センターなど、シンポジウム「[繰り返されるプール事故から子どもを守る](#)」（山中龍宏、[【報告】監視の限界を科学的に明らかにしたシンポジウム「繰り返されるプール事故から子どもを守る」](#)）
- 公益財団法人日本サッカー協会、[救命講習会の実施](#)

5. 救出・取り組み事例

- 体育の授業中に、倒れて意識を失った生徒に対し、AED の使用を開始した結果、救急隊が駆けつける前に呼吸と心拍数が戻り、一つの命が救われた事例(2018年3月)
- 陸上競技大会に参加し心肺停止状態になった男性を、現場にいた6人の方が救命措置を施し、人命を助けた事例（沖縄タイムズ、[陸上大会で心肺停止…その場にいた6人で救命リレー 助かったと知り涙ぐむ](#)
- 姫路城マラソンのレース中に心肺停止状態で倒れた男性が AED と二人の男性の勇気によって救われた事例（神戸新聞 NEXT、[倒れたランナー蘇生、関東の2人表彰 2月の姫路城マラソン](#)）
- 東海社会人サッカー、猛暑のため試合の中止
- 高校野球・滋賀大会、猛暑のため試合日程の変更

以上

発行者：一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN